

Museum der Kulturen Basel 所蔵 沖縄織物調査報告着物編

新田 摂子

Research Report on Okinawa Kimono, Owned by Museum der Kulturen Basel

Setsuko NITTA

1. はじめに

筆者は、2017年8月7日～17日、スイスのMKB（Museum Der Kulturen Basel）¹にて、沖縄織物資料の調査を行った。この調査は、MKBで行われた初めての沖縄関係染織品の悉皆調査である。

MKBは、スイス第3の都市バーゼル旧市街にあり、約300,000点以上のヨーロッパ、アフリカ、オセアニア、インドネシア、中央アジア、東アジア各地の文化人類学的コレクションを所蔵している。これらのコレクションのうち、染織品関係は約50,000点程であるという。今回は、MKBの染織関係コレクションのうち、沖縄関係染織品の悉皆調査を行った。

では、そもそもなぜMKBに沖縄関係染織品が所蔵されているのだろうか。また、ヨーロッパにおける沖縄関係染織品の調査について、これまでの概略を簡単に述べたい。始めに、ヨーロッパにおける琉球・沖縄関係の資料調査は、これまでも大がかりな調査が行われている。ドイツのボン大学日本文化研究所は、1982年から1985年の間、ヨーロッパ130カ所以上の博物館、美術館などの関連施設における琉球・沖縄関係資料調査を行った。その結果、ヨーロッパにおける琉球・沖縄関係資料は、計18ヶ国、54機関に、147のコレクション、総数1,483点が所蔵されていることが明らかとなっている²。

また、ボン大学日本文化研究所以外のこれまでのMKBにおける沖縄関係染織品調査は、祝嶺恭子による1992年から1993年に行われた調査がある。祝嶺は

ベルリン民俗学博物館所蔵コレクションの調査の際に MKB も訪れ調査を行っている。祝嶺によると、バーゼルの MKB には、沖縄関係染織品が 189 点所蔵されていると記している。しかし、祝嶺による調査はあくまでもベルリン民俗学博物館の調査が主目的であるため、詳細なものではなく、祝嶺による「琉球王朝時代の染織の調査研究—ベルリン民俗学博物館所蔵のコレクションを中心に—」にも、詳しい調査は将来の課題としたいと述べられているに留まる。

では、ボン大学日本文化研究所における調査はどのような調査が行われたのであろうか。ボン大学における琉球・沖縄関係資料調査の報告書『Sources of Ryūkyūan History and Culture in European Collections』には、所蔵機関別に、蒐集先、蒐集年、所蔵先番号、資料の形態などが記述されている。同報告書の MKB 沖縄関係染織品に関するページは、2 ページで、全部で 8 コレクション、計 201 点となっている。

表 1 は、ボン大学日本文化研究所の調査報告書に記載されていた MKB の沖縄関係染織品のリストから、蒐集先、蒐集年度、資料点数を抜き出したものである。

表 1 MKB 沖縄関係染織品リスト 『Sources of Ryūkyūan History and Culture in European Collections』 pp.309-310 より抜粋

コレクション番号	蒐集先	蒐集年	資料点数
1	E.Merian Bischof	1853 年	1 点
2	Webschule Krefeld	1942 年	8 点
3	Dr.E.Hofmann	1944 年	1 点
4	J.Langewis	1954 年	1 点
5	J.Langewis	1956 年	114 点
6	J.Langewis	1957 年	21 点
7	J.Langewis	1963 年	54 点
8	J.Langewis	1969 年	1 点

表 1 より、コレクションの蒐集先は、E.Merian Bischof（コレクション 1）、Webschule Krefeld（コレクション 2）Dr.E.Hofmann（コレクション 3）、J.Langewis（コレクション 4～8）とある。それぞれの蒐集先の詳細については、調査報告書の記載だけでは不明であり、今後の調査が必要である。ただし、最もコレクションの多い J.Langewis 氏は、同報告書に curio-dealer と記載がある。つ

まり、コレクション4～8は、MKBが骨董商であるJ.Langewis氏から購入もしくは寄贈³された資料といえよう。

蒐集年は、1853年から1969年と幅広い。コレクション1の1853年を除き、コレクション2～8は、戦前から戦後に蒐集されている。そのうち、コレクション1から3は、資料点数計201点のうち、全部で10点と少ない。また、コレクション1は、三線資料だったため、今回の沖縄関係染織品資料からは対象外とした。以上のことから、MKBの沖縄関係染織品の大部分は、J.Langewis氏から購入した1954年から1969年のコレクション4から8であるといえよう。

また、同報告書には、コレクション2は、織物裂8点と記載されていた。しかし、筆者が調査を行った所、実際にはコレクション2には、10枚の小さな裂が封筒に収められていた。さらに、このコレクション2の10点の裂のうち、7枚は日本本土で織られた織物裂であり、沖縄で織られた織物は3枚だったことがわかった。また、コレクション3は、鹿児島県の大島紬の裂1点だった。

このように、ひとつひとつのコレクションについて実際に調査を行った結果、報告書に記載された点数との不一致、さらに日本本土の資料も混在していることもわかった。そのため、今回の調査では、ボン大学の調査報告書に記載されたリストをもとにしながら、新たな調査リストを作成した。

その結果2017年度の調査では、計225点のMKBの沖縄関係染織品を確認した。そのうち、日本本土の資料、コレクション1の三線、沖縄以外の資料の多い裂帖など25点を対象外とした。そのため、調査対象資料は、計200点となった。今年度の調査では、計200点の調査対象資料のうち、113点の調査を行うことができた⁴。

今年度調査済の113点の内訳は、織物資料が85点、染資料が28点である。筆者は織物資料の調査を担当した。織物資料85点の内訳は、着物28点、裂46点、てさあじ11点である。今年度の調査は、特に着物資料を中心に行い、全て終了した。残り未調査分の87点は、裂資料、てさあじ、染資料その他である。そのため、今回の報告では調査が完了している沖縄織物着物資料28点について報告する。

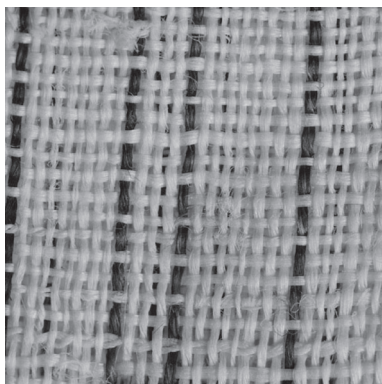
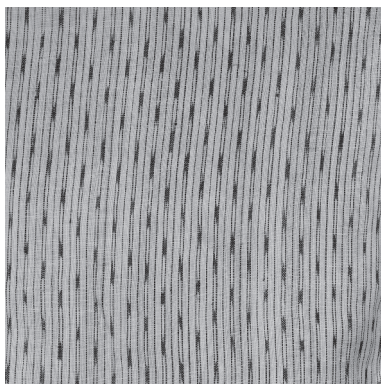
2. MKB 沖縄織物着物資料一覧

今回調査を行った MKB の沖縄織物資料のうち着物資料は合計 28 点である（表 2）。

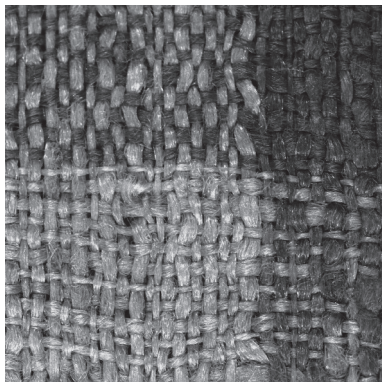
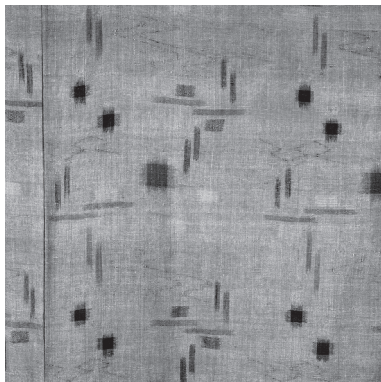
表 2 MKB 沖縄織物着物資料調査一覧

	所蔵先番号	名称
1	IId 4784	苧麻白地経縞経緋着物
2	IId 4785	絹黄色地御絵図柄着物
3	IId 4801	芭蕉生成地格子着物
4	IId 5128	絹茶色地格子緯緋着物
5	IId 5129	芭蕉生成地経緯緋着物
6	IId 5259	芭蕉木綿こげ茶地緯縞緯緋着物
7	IId 5319	芭蕉生成地経緋緯緋着物
8	IId 6014	苧麻水色地経緯緋着物
9	IId 6015	桐板生成地緯緋着物
10	IId 6016	芭蕉桐板白地格子緯緋着物
11	IId 6017	芭蕉生成地経緯緋着物
12	IId 6018	苧麻白地経緯緋スディナ
13	IId 6019	ラミー苧麻白地経緯緋着物
14	IId 6020	桐板白地緯緋着物
15	IId 6021	桐板白地経縞緯緋着物
16	IId 6022	芭蕉生成地経緋着物
17	IId 6023	木綿青地綾中子供用着物
18	IId 6024	木綿青地手縞袷着物
19	IId 6025	木綿紺地経浮花織袷着物
20	IId 6026	木綿茶色地格子緯緋袷着物
21	IId 6027	絹茶色地経緯緋着物
22	IId 6028	木綿紺地読谷花織袷着物
23	IId 6029	芭蕉赤地経縞着物
24	IId 6030	芭蕉苧麻赤地経縞緋織着物
25	IId 6031	絹芭蕉赤地経縞緋織着物
26	IId 6032	桐板白地格子着物
27	IId 6034	木綿紺地読谷花織リンクワ
28	IId 6035	芭蕉生成地緯縞緯緋子供用着物

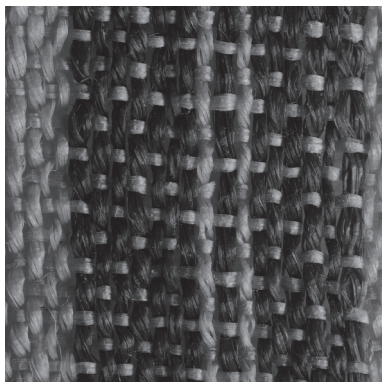
1 IId 4784 苧麻白地経縞経緋着物



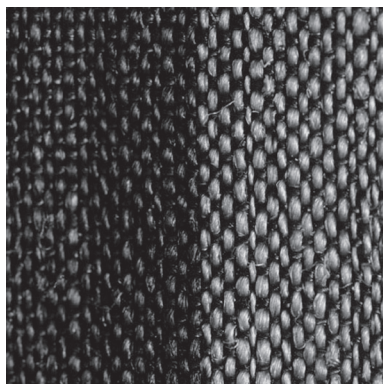
2 IId 4785 絹黄色地御絵図柄着物



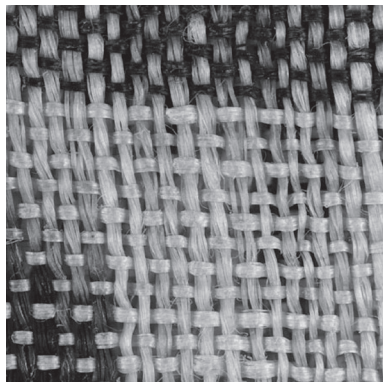
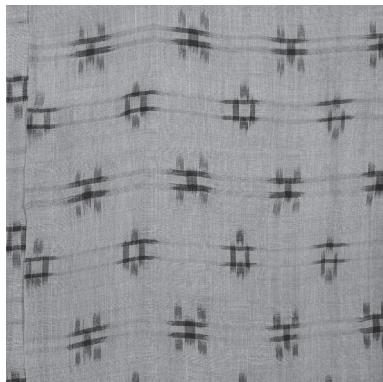
3 IId 4801 芭蕉生成地格子着物



4 IId 5128 絹茶色地格子緯緋着物



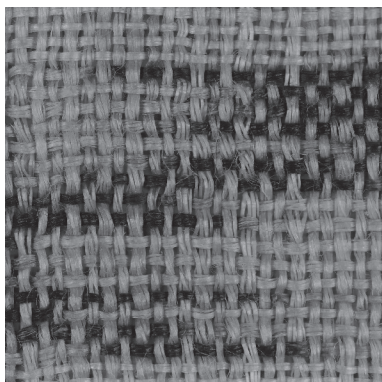
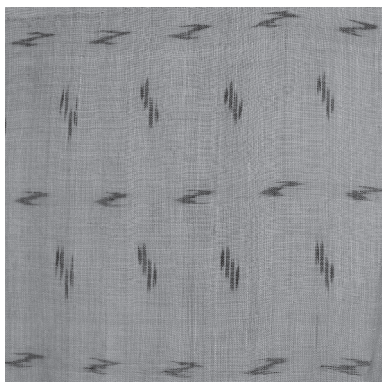
5 IId 5129 芭蕉生成地経緯緋着物



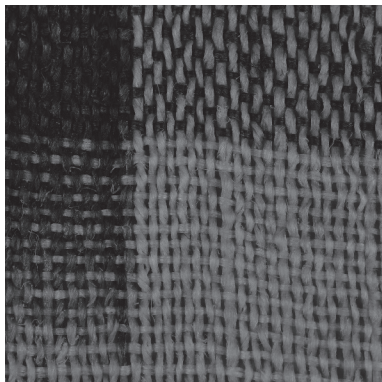
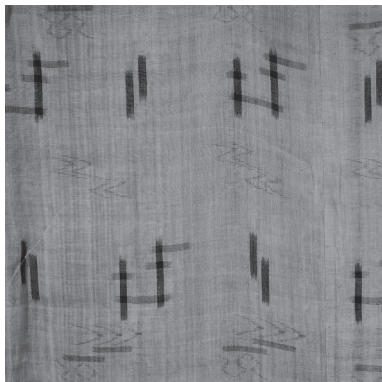
6 IId 5259 芭蕉木綿こげ茶地緯緋緋緋着物



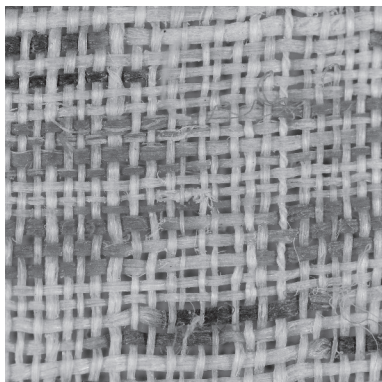
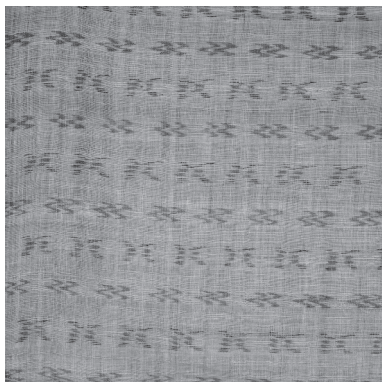
7 IId 5319 芭蕉生成地経緯緋着物



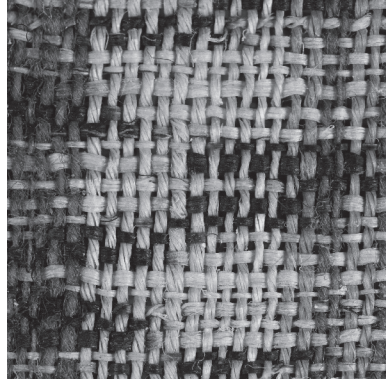
8 IId 6014 苧麻水色地経緯緋着物



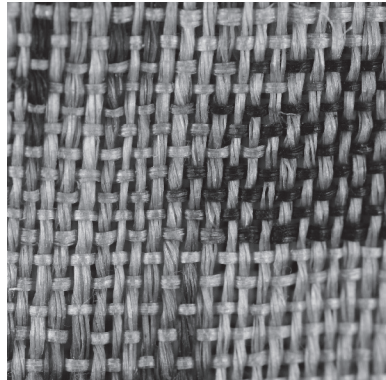
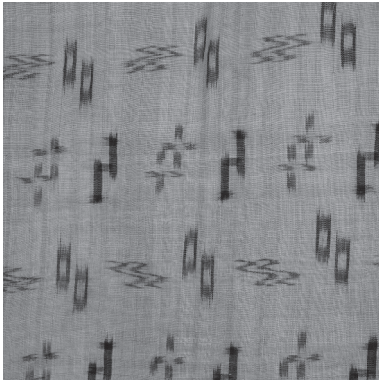
9 IId 6015 桐板生成地経緯緋着物



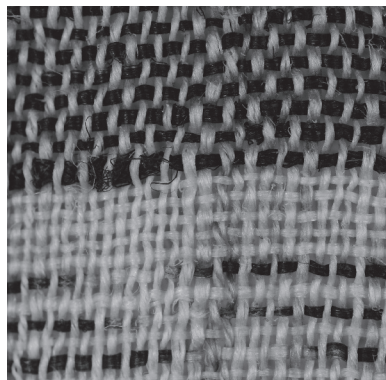
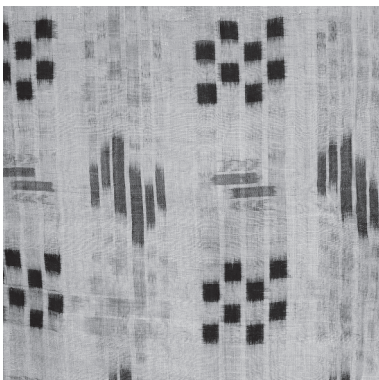
10 IId 6016 芭蕉桐板白地格子緯緋着物



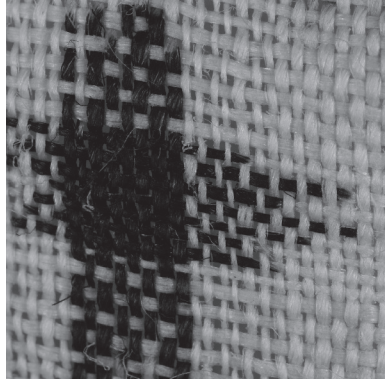
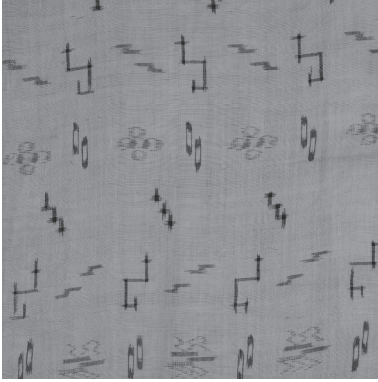
11 IId 6017 芭蕉生成地経緯緋着物



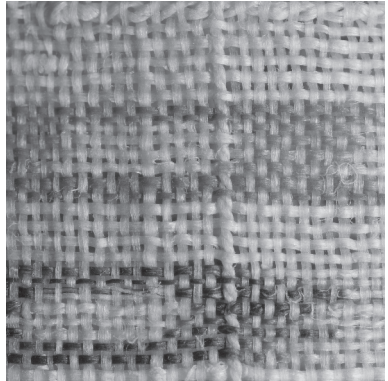
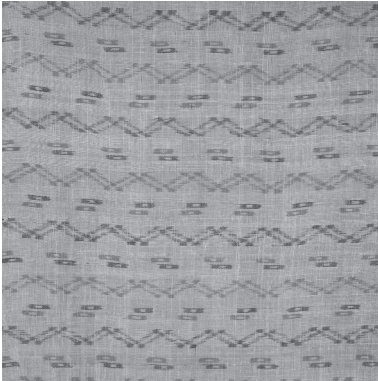
12 IId 6018 苧麻白地経緯緋スディナ



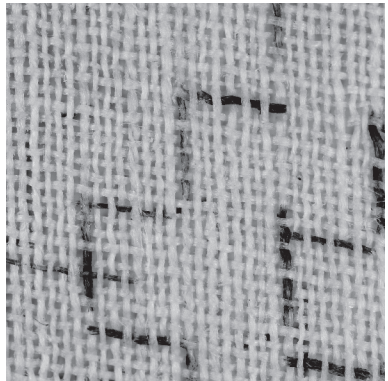
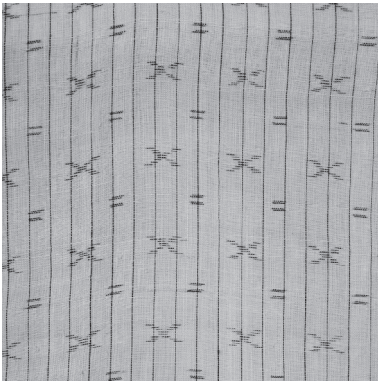
13 IId 6019 ラミー苧麻白地経緯緋着物



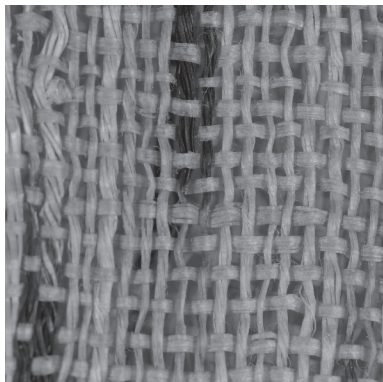
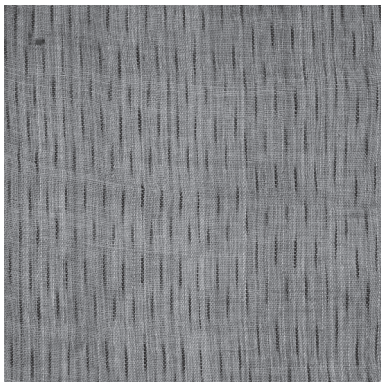
14 IId 6020 桐板白地経緯緋着物



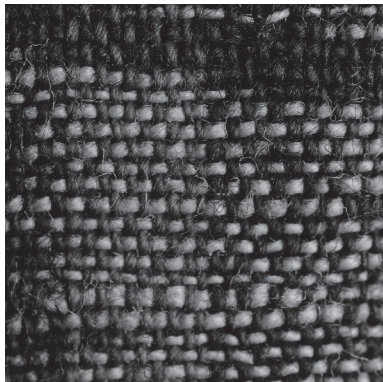
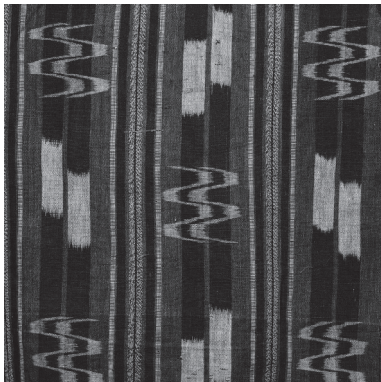
15 IId 6021 桐板白地経緯緋着物



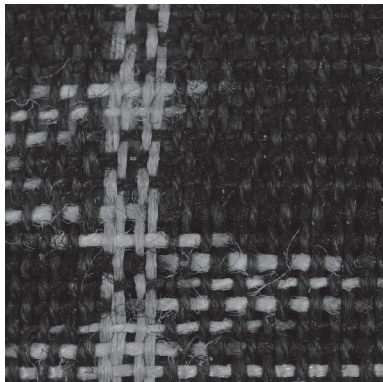
16 IId 6022 芭蕉生成地経緋着物



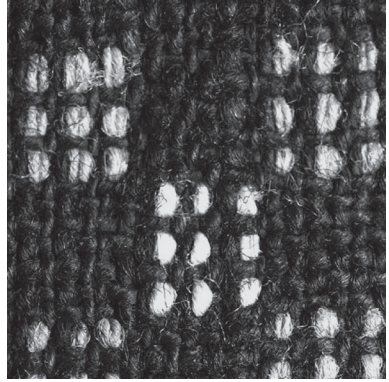
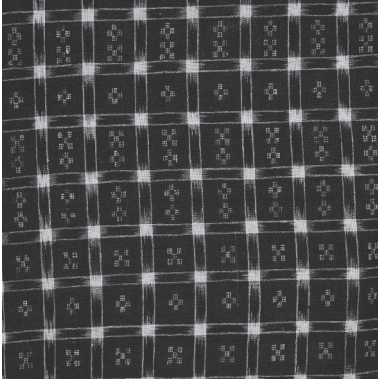
17 IId 6023 木綿青地綾中子供用着物



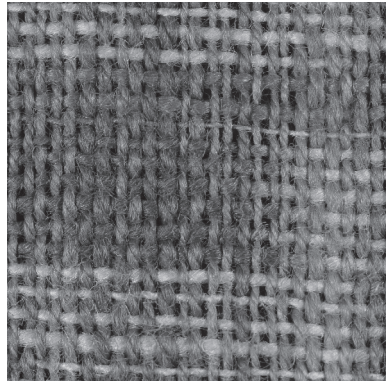
18 IId 6024 木綿青地手縞袴着物



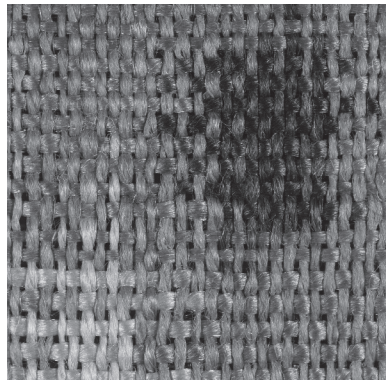
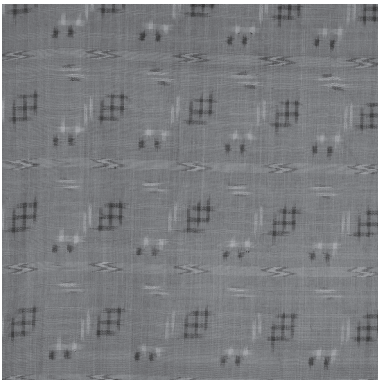
19 Iid 6025 木綿紺地経浮花織袷着物



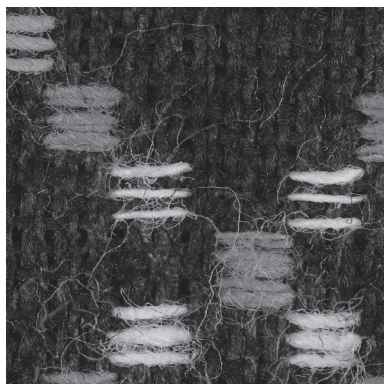
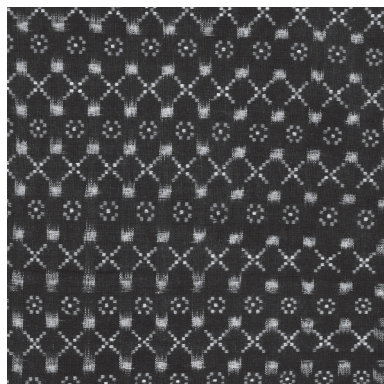
20 Iid 6026 木綿茶色地格子緯緋織袷着物



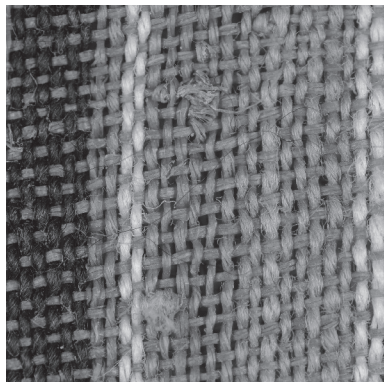
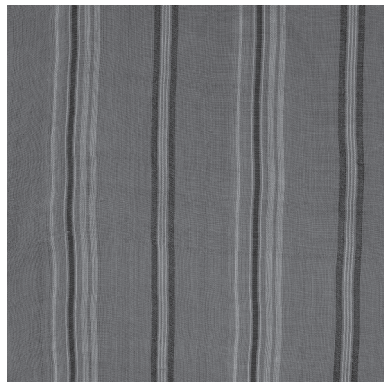
21 Iid 6027 絹茶色地経緯緋織着物



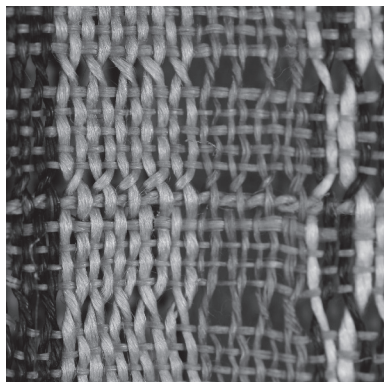
22 IId 6028 木綿紺地読谷花織袷着物



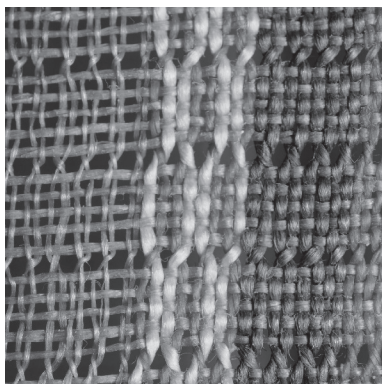
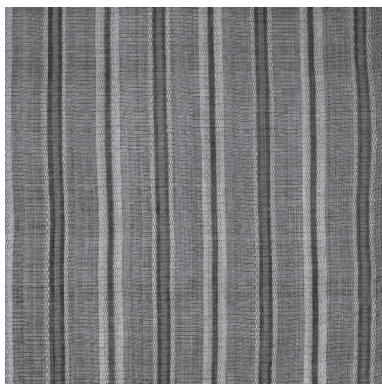
23 IId 6029 芭蕉赤地経織着物



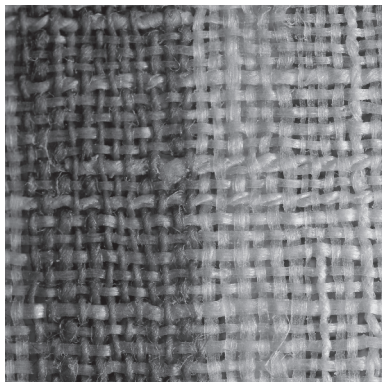
24 IId 6030 芭蕉芋麻赤地経緞織着物



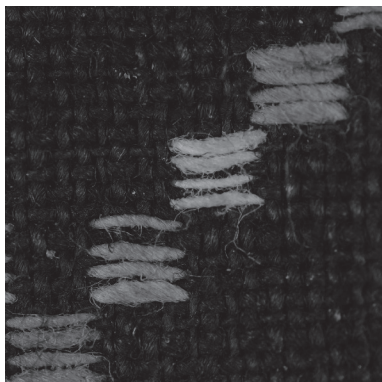
25 IId 6031 絹芭蕉赤地経縞緞織着物

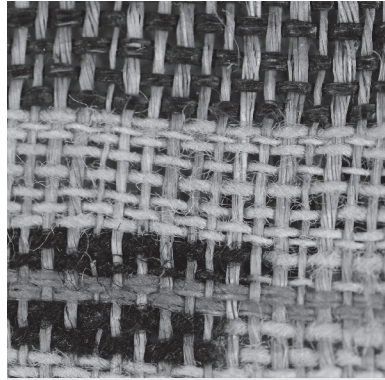


26 IId 6032 桐板白地格子着物



27 IId 6034 木綿紺地読谷花織リシクワ





3. MKB 沖縄織物着物資料の特徴

MKB の沖縄織物着物資料の特徴は、保存状態が大変良い点が挙げられる。その要因として、着物資料を専用のハンガーに吊るす収納方法が考えられる（写真1）。このハンガーは、木製の横木にフックがついている。ハンガーの木材の部分は伸縮性のある木綿の素材でカバーされていた（写真2）。つまりMKBの着物資料は、ハンガーに木綿布のカバーをすることで、出し入れの際の破損から守られているといえよう。このような細やかな配慮により、MKBの沖縄織物着物資料は、丁寧に保存されていた。

筆者が知っている範囲では、着物資料は、折りたたみ、たとう紙に包んで収蔵庫に保存される方が日本の博物館や美術館において、一般的と思われる。また、折りたたんだ着物資料は、さらにその上に着物資料を積み重ねる場合もある。しかし、MKBでは、着物資料をたたまずにハンガーで吊していることから、着物をたたんだ際の折り目がつかなく、非常にきれいな状態で保存されている。このようなMKBのハンガーを使った収納方法は、専用の保存棚を必要とし、収蔵スペースの点では効率的とはいえないが、着物資料の保存には最もストレスの少ない方法といえるだろう。

このような保存方法の恩恵を最も受けたのは、芭蕉や桐板などの固い素材の着物資料である。芭蕉や桐板を素材とする着物資料は、絹や木綿などの素材と比較して、繊維そのものが固いため、たたみシワによる織り目がつきやすい。MKB



写真1 ハンガーに吊されている着物資料



写真2 ハンガー



写真3 IId6020 桐板白地緯緋着物



写真4 IId6032 桐板白地格子着物

沖縄織物着物資料 28 点うち、経糸が絹の資料は、4 点、木綿は 6 点、苧麻は 3 点、機械紡績の苧麻糸であるラミーは 1 点、芭蕉が 10 点、桐板が 4 点だった。なかでも、経糸が桐板の所蔵先番号 IId6020（写真 3）や IId6032（写真 4）は、保存状態が大変よかった。

さらに、MKB 沖縄織物着物資料の特徴は、織物を染める際に用いられた染料が退色せずに、鮮やかな色彩を保っている点が挙げられよう。特に色彩が鮮やかに残っていたのは、所蔵先番号 IId6030 芭蕉苧麻赤地経縞組織着物である（写真 5）。この着物資料は、地色が赤色で、経糸が芭蕉、緯糸が苧麻の組み合わせである。一般には、芭蕉を地糸に用いる場合は、染色せず生成色のままの場合が



写真5 IId6030 芭蕉芋麻赤地経緯緞織着物

多い。しかし、MKBのIId6030 芭蕉芋麻赤地経緯緞織着物は、色芭蕉と呼ばれる、芭蕉に糸染めがされている。このような色芭蕉の資料は、日本国内でも大変数が少なく稀少である。MKBのIId6030 芭蕉芋麻赤地経緯緞織着物は、これまで頻りに展示される資料ではなかった為、収蔵庫外の日光による退色から守られおり、染料が鮮やかに残っていると考えられる。

4. おわりに

本稿は、MKB 沖縄関係染織品調査の第1回目の調査報告である。MKBの沖縄関係染織品の全ての調査は、まだ終了していない。そのため、今後の調査によって、最終的な調査点数やその他の情報がより詳細に明らかにできるだろう。今回は、MKBの沖縄織物着物資料に限って、その概要を報告した。今後は、裂資料や御絵図、てさあじなどの調査を行い、より総合的なMKB 沖縄織物資料の全容解明に努めたい。

註

- 1 日本語では、バーゼル民族博物館、バーゼル民俗博物館、バーゼル民族文化博物館などと呼ばれている。日本語での正式な名称が不確定であったため、本稿では Museum Der Kulturen Basel を略して MKB と表記する。
- 2 Josef Kreiner 『Sources of Ryūkyūan History and Culture in European Collections』 Monographien Herausgegeben vom Deutschen Institut für Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung Band 13,1996、pp.269-271

- 3 同報告書には、コレクション4は、j.Langewis氏より寄贈、他のコレクション5～8は購入となっている。コレクション4は、資料点数1点で、1953年に沖縄で蒐集したとある。
- 4 未調査分は来年度に調査予定。

参考文献

Josef Kreiner 『*Sources of Ryūkyūan History and Culture in European Collections*』 Monographien Herausgegeben vom Deutschen Institut für Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung Band 13,1996

祝嶺恭子 「琉球王朝時代の染織の調査研究ーベルリン民俗学博物館所蔵のコレクションを中心にしてー」 『沖縄県立芸術大学紀要』 第3号、1995年

